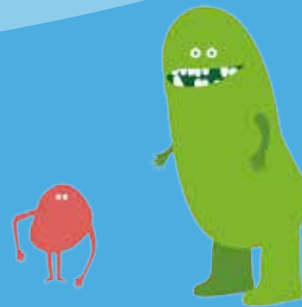
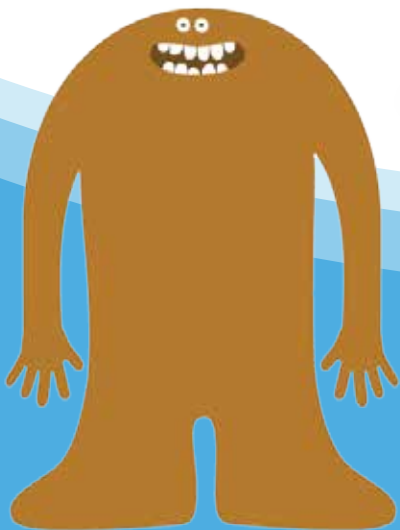


利益ある成長をめざして

ナブテスコ株式会社

代表取締役社長

小谷 和朗



1. 2015年12月期連結業績概況

2. 2016年12月期見通し

3. 中期的な成長に向けた現状分析



1. 2015年12月期連結業績概況



決算期変更および数値の表記について

2015/12期より決算期を3月決算から12月決算に変更。

2015年3月期

	2014年												2015年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当社および国内連結子会社	/			第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
海外連結子会社				第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		

通期：国内・海外ともに12ヵ月

2015年12月期

(短信ベース)	2015年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
当社および国内連結子会社	/			第1四半期			第2四半期			第3四半期		
海外連結子会社				第1四半期			第2四半期			第3四半期		

通期：国内9ヵ月、海外12ヵ月

連結業績概況

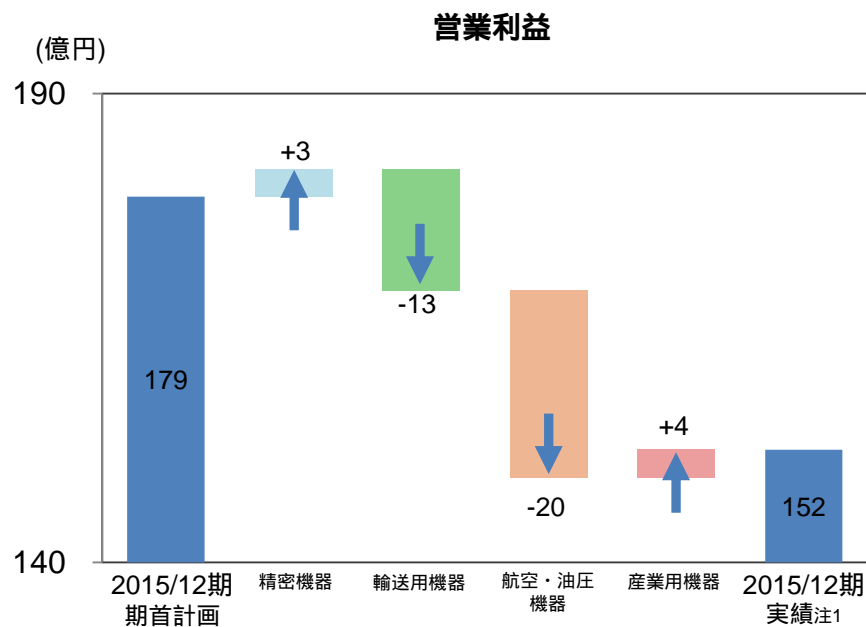
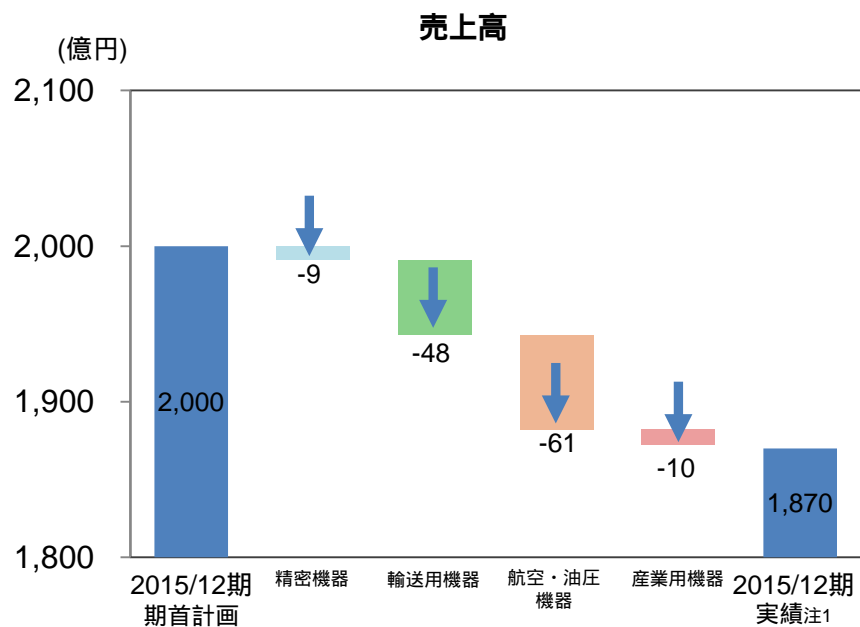
2015/12期は中国における需要減速の影響を受け、期首計画を下回るも、配当額は維持

(単位：百万円)	2015/12 実績 (A)	2015/12 通期	実績と期首計画 の差異 (A-B)	達成率 (A/B)
	当社および国内連結子会社9カ月 海外連結子会社12カ月	期首計画 2015年5月策定 (B)		
売上高	187,000	200,000	-13,000	93.5%
営業利益	15,294	17,900	-2,606	85.4%
(営業利益率)	8.2%	9.0%	-0.8pt	-
営業外損益	1,124	-	-	-
経常利益	16,418	19,700	-3,282	83.3%
特別損益	-1,060	-	-	-
税金等調整前 当期純利益	15,358	-	-	-
当期純利益*	11,059	13,400	-2,341	82.5%
一株当たり 純利益	88.85円	105.88円	-	-
為替レートの US\$1 = ¥121.03 RMB1 = ¥19.37		US\$1 = ¥115.00 RMB1 = ¥18.50	-	-
一株当たり配当額	44円(予)	44円(予)	±0	100%

参考：2015/3期 1株当たり利益 140.24円

*当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

油圧機器事業および鉄道車両用機器における中国向け需要減の影響を受け、計画比減収減益



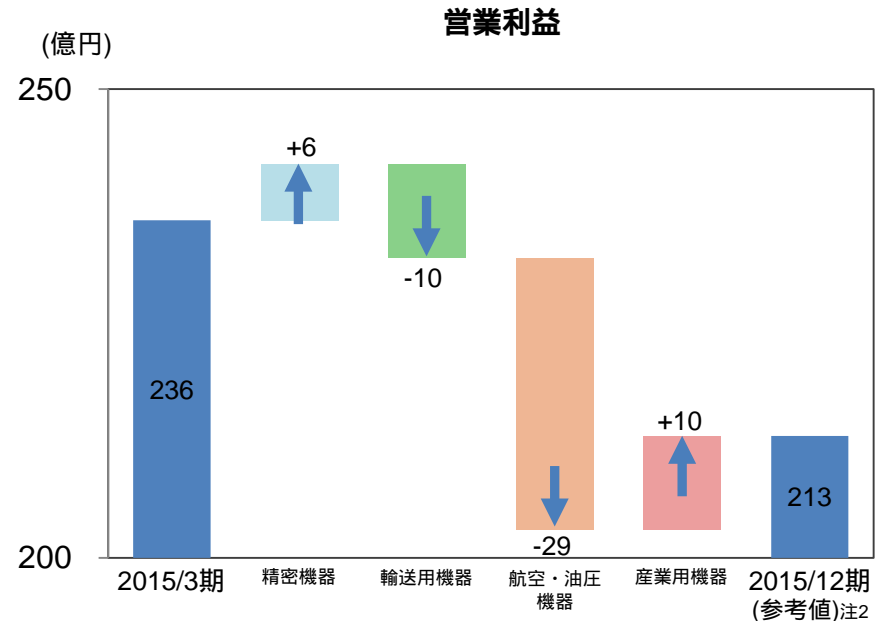
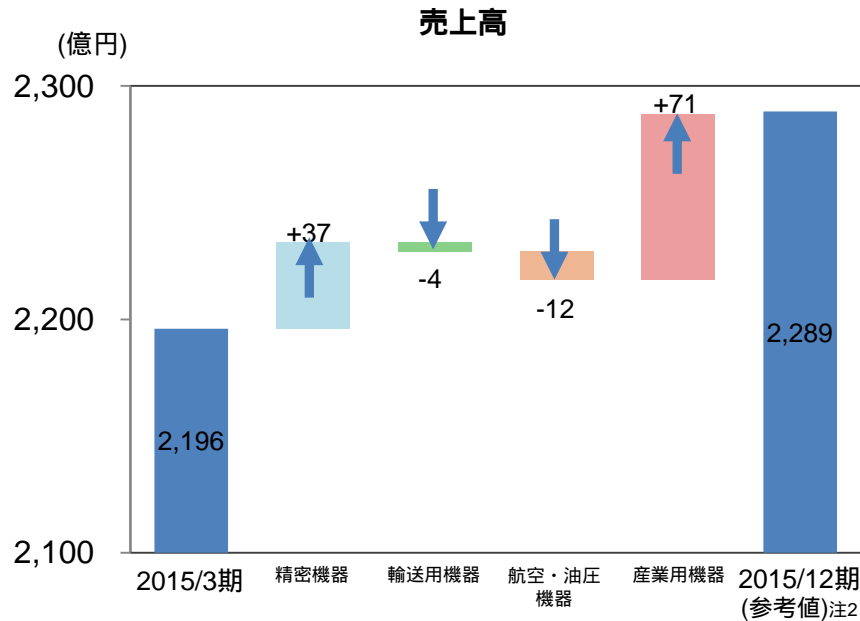
中国における建設機械需要減の影響を受け、油圧機器事業の改革を実施

- 中国生産拠点の統合 (中国2工場を1つに)
- 中国における設備能力の削減 (設備能力30%削減)
- 中国生産拠点の資産圧縮 (減損処理：特別損失21億円)

注1 当社および国内連結子会社9カ月、海外連結子会社12カ月を連結対象期間としております。

2015/3期と2015/12期(12カ月ベース参考値)との比較

好調なロボット需要および買収効果があったものの、中国市場減速の影響を受け、増収減益



- 精密機器事業：** 精密減速機は好調なロボット需要等を背景に増収増益
- 輸送用機器事業：** 製品構成差およびコスト増により減益
- 航空・油圧機器事業：** 航空機器は為替効果もあり増収増益
油圧機器はM&A効果はあるが、中国需要低迷の影響を受け、減収減益
- 産業用機器事業：** 2015/3期に実施したM&A効果および会計方法統一により増収増益

注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご留意下さい。

継続的な成長投資に加え、自社株買いを実施してもなお、健全なBSを維持

(単位：百万円)

	2015/3期末 2015年3月31日現在	2015/12期末 2015年12月31日現在	差異
資 産	245,992	233,381	-12,611
(現 預 金 等)	51,157	35,068	-16,088
(売 上 債 権)	57,115	59,750	2,635
(棚 卸 資 産)	25,165	28,421	3,256
(有 形 固 定 資 産)	56,877	55,916	-960
負 債	87,327	84,456	-2,871
(有 利 子 負 債)	16,659	15,333	-1,326
純 資 産	158,664	148,924	-9,739
(新 株 予 約 権)	391	379	-11
(非 支 配 株 主 持 分)	8,410	6,476	-1,934
自 己 資 本	149,862	142,068	-7,793

Remarks :

- 自己株式取得
-9,999百万円

Remarks :

- 資本剰余金
-4,752百万円
- 為替換算調整勘定
-1,379百万円
- その他有価証券
評価差額金
-1,288百万円

自己資本比率：

60.9%

60.9%

2. 2016年12月期見通し



決算期変更および数値の表記について

2015/12期と2016/12期の比較を行うため、参考値を開示

2015年12月期

(参考値ベース)	2015年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
当社および国内連結子会社	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
海外連結子会社	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		

通期：国内・海外ともに12ヵ月に補正 (黄色部分を追加)

2016年12月期

	2016年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
当社および国内連結子会社	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
海外連結子会社	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		

通期：国内・海外ともに12ヵ月

通期連結業績見通し

2016/12月期は売上高、営業利益、当期純利益ともに過去最高値を目指す
 一株当たり配当金を50円とし、前期より6円増配する予定

(単位：百万円)	2015/12 実績 (参考値注2) (A)	2016/12 計画 (B)	前期比 増減額 (B-A)	前期比 増減率 ((B-A)/A)	2015/12 実績 (短信ベース)
売上高	228,949	250,000	21,051	9.2%	187,000
営業利益	21,308	25,500	4,192	19.7%	15,294
(営業利益率)	9.3%	10.2%	0.9pt	-	8.2%
経常利益	22,387	27,000	4,613	20.6%	16,418
当期純利益*	14,796	18,900	4,104	27.7%	11,059
ROA	6.2%	7.6%	-	-	4.6%
ROE	10.1%	12.5%	-	-	7.6%

一株当たり配当金
配当性向

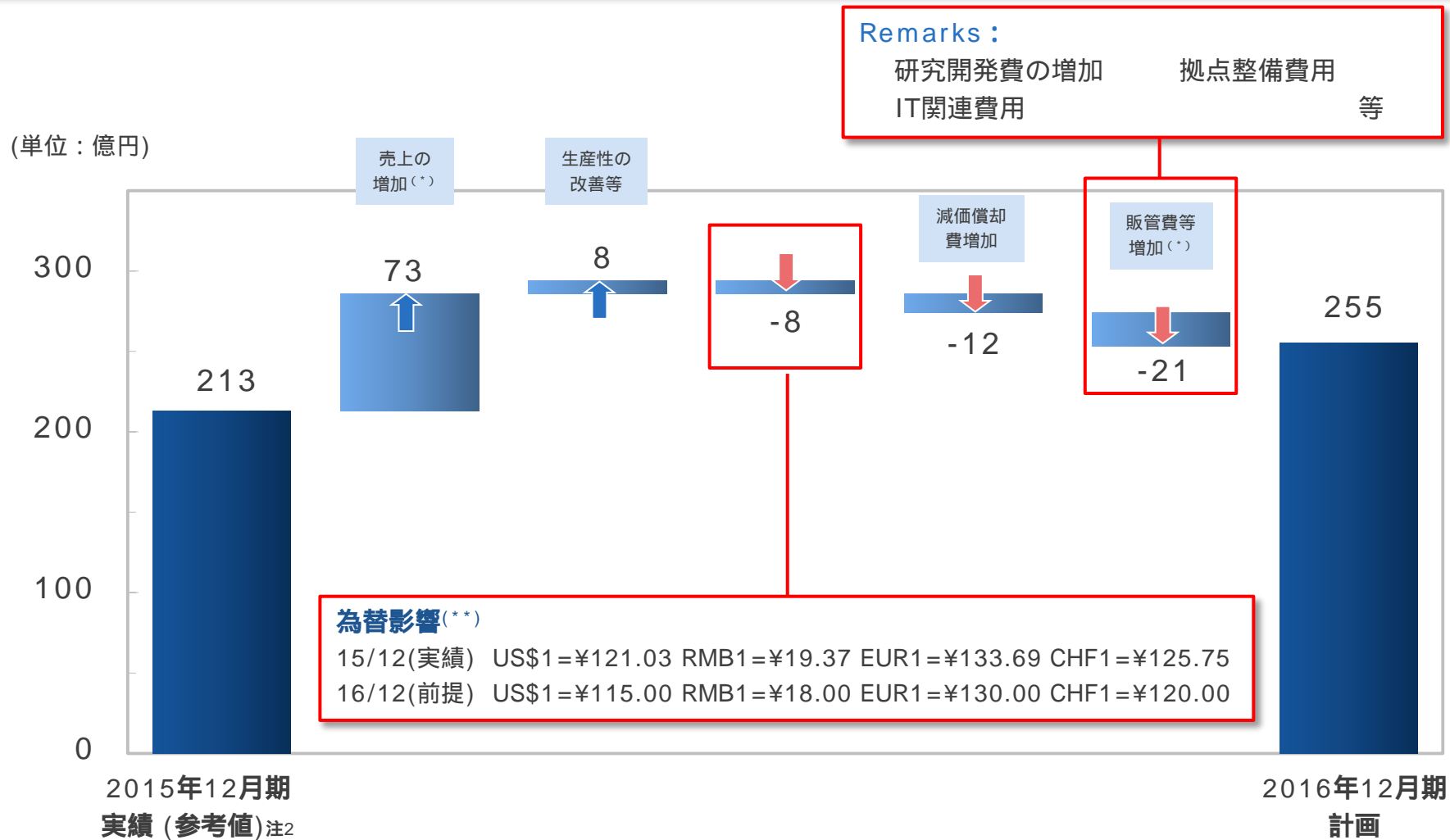
50円(予)
32.7%(予)

44円(予)
49.5%注3(予)

* 当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

注2,注3の注記に関する事項は末尾の注記リストをご参照ください。

連結損益予想 (営業利益変動要因分析)



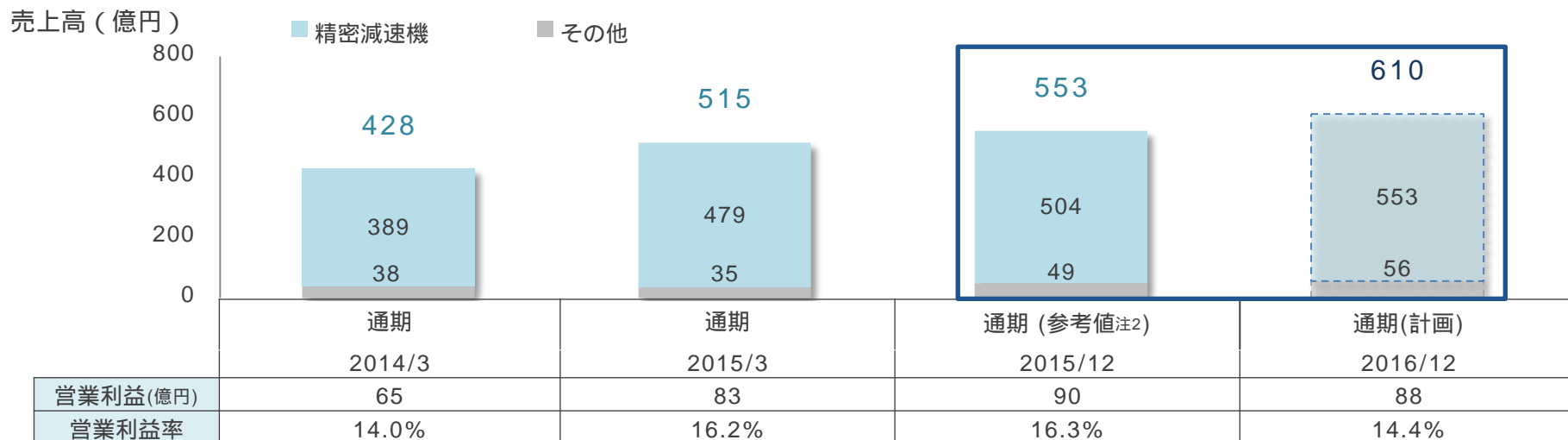
* 売上の増減および販管費等の増加による営業利益の変化については為替影響を除き計算。

** 為替感応度(為替が1円変動したときの営業利益に対する影響) 米国ドル 91百万円 人民元 55百万円、ユーロ軽微、スイスフラン軽微

注2の注記に関する事項は末尾の注記リストをご参照ください。

産業用ロボット向けをはじめとする堅調な自動化需要に牽引され、増収の見通し 精密減速機の中国新工場も順調に立ち上がる

業績実績及び計画



注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となります。

計画比較 (16/12 対 15/12参考値 (1-12月))

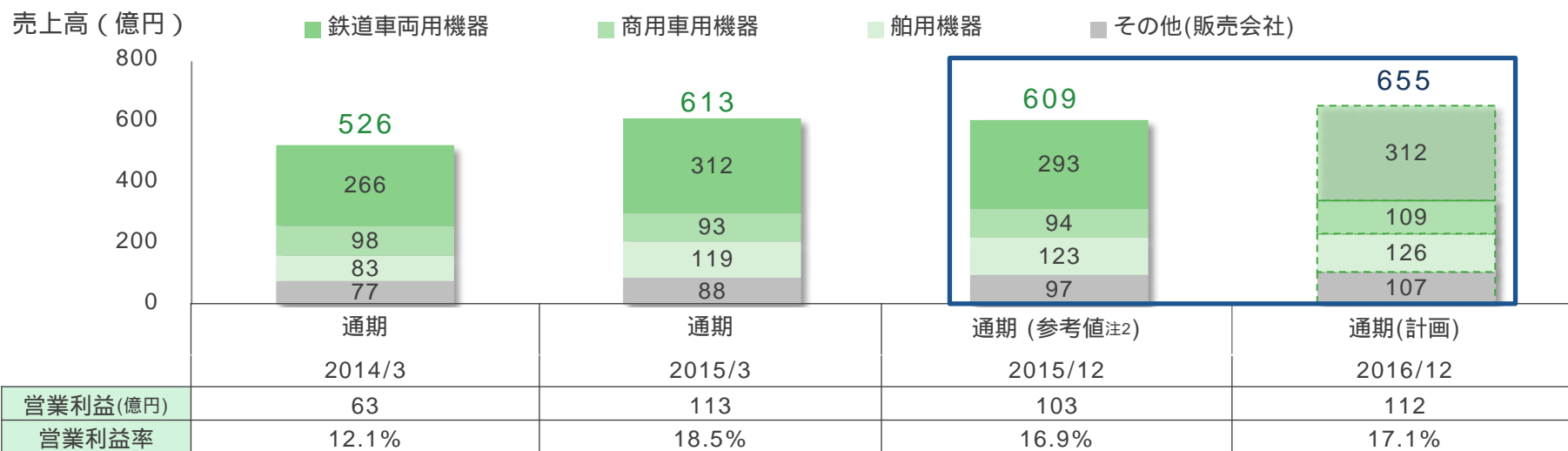
精密減速機： 堅調な自動車生産、自動化の進展に支えられ産業用ロボット市場は6%成長。
加えてFA向け製品の拡販により、増収の見通し

新エネルギー事業： 風力発電機向け売上減

営業利益(セグメント)： 精密減速機事業の増収に伴う利益貢献が見込まれるが、同事業の生産能力増強による償却負担増や新工場の立ち上げ費用が一時的に収益性を圧迫。

事業ごとに強弱はあるものの、確実な需要取り込みとMRO拡販を背景に健全な収益性を維持

業績実績及び計画



注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となります。

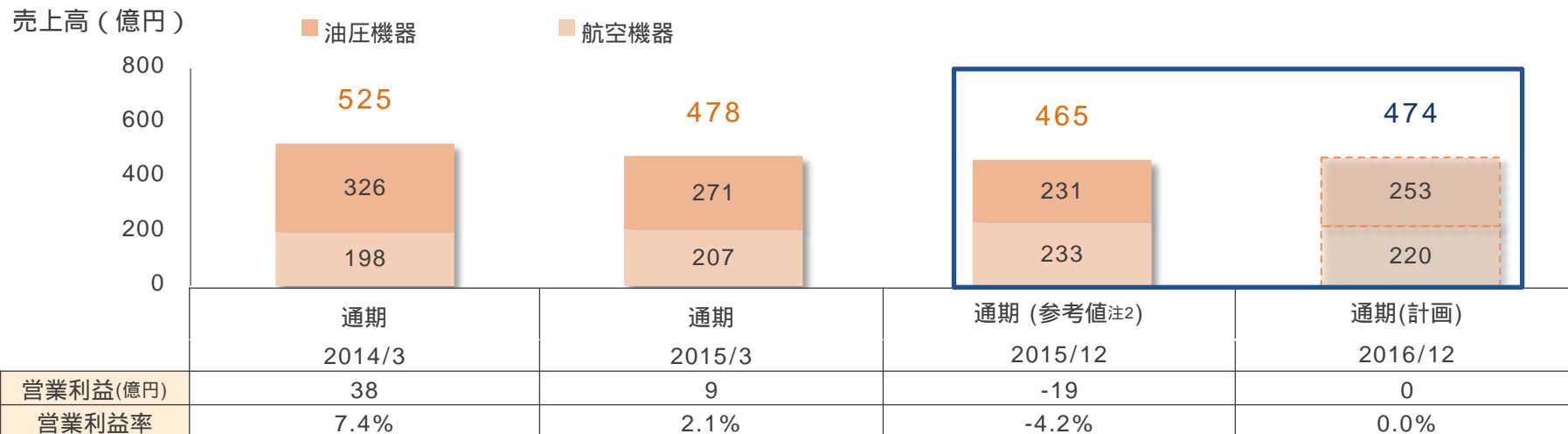
計画比較 (16/12 対 15/12参考値 (1-12月))

- 鉄道車両用機器：** 中国を中心とした海外向け鉄道車両需要増およびMRO*ビジネスの持続的な拡大により、増収の見通し
- 船用機器：** 電子化エンジン機器の需要増およびMRO拡販により増収の見通し
- 商用車用機器：** ASEAN向けトラック需要の低迷は継続するも、堅調な国内需要により増収の見通し
- 営業利益(セグメント)：** 各事業での売上増およびMRO拡販による増益の見通し

*MRO: Maintenance, Repair, Overhaul

油圧機器事業の改革により収益性改善を図る

業績実績及び計画



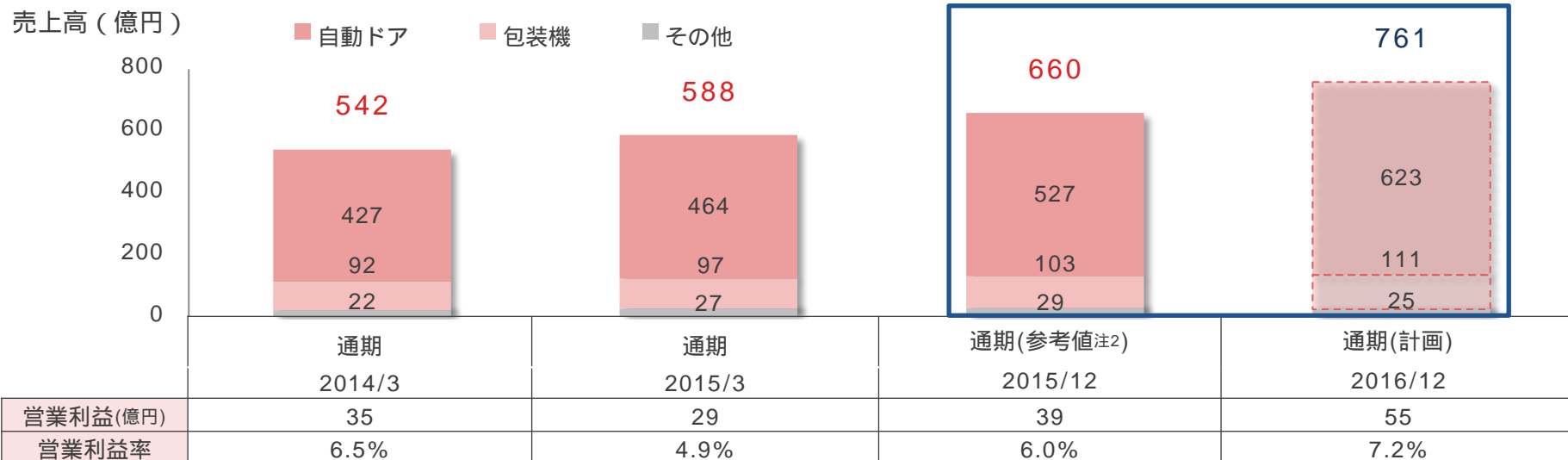
注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となります。

計画比較 (16/12 対 15/12参考値 (1-12月))

- 航空機器：** 民間航空機向けは新規プログラム量産までの端境期にあり、円高の影響を受け減収計画
- 油圧機器：** 中国建設機械の生産実需の回復およびハイエストコーポレーション買収による効果が通年で貢献し、増収の見通し
- 営業利益(セグメント)：** 油圧機器事業の増収効果および同事業の構造改革効果により、収支均衡を目指す

自動ドア事業の拡大に牽引され、成長を見込む

業績実績及び計画



注2「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となります。

計画比較 (16/12 対 15/12参考値 (1-12月))

自動ドア： 堅調な国内外需要に加え、バリューチェーン経営の整備およびM&A効果により増収の見通し

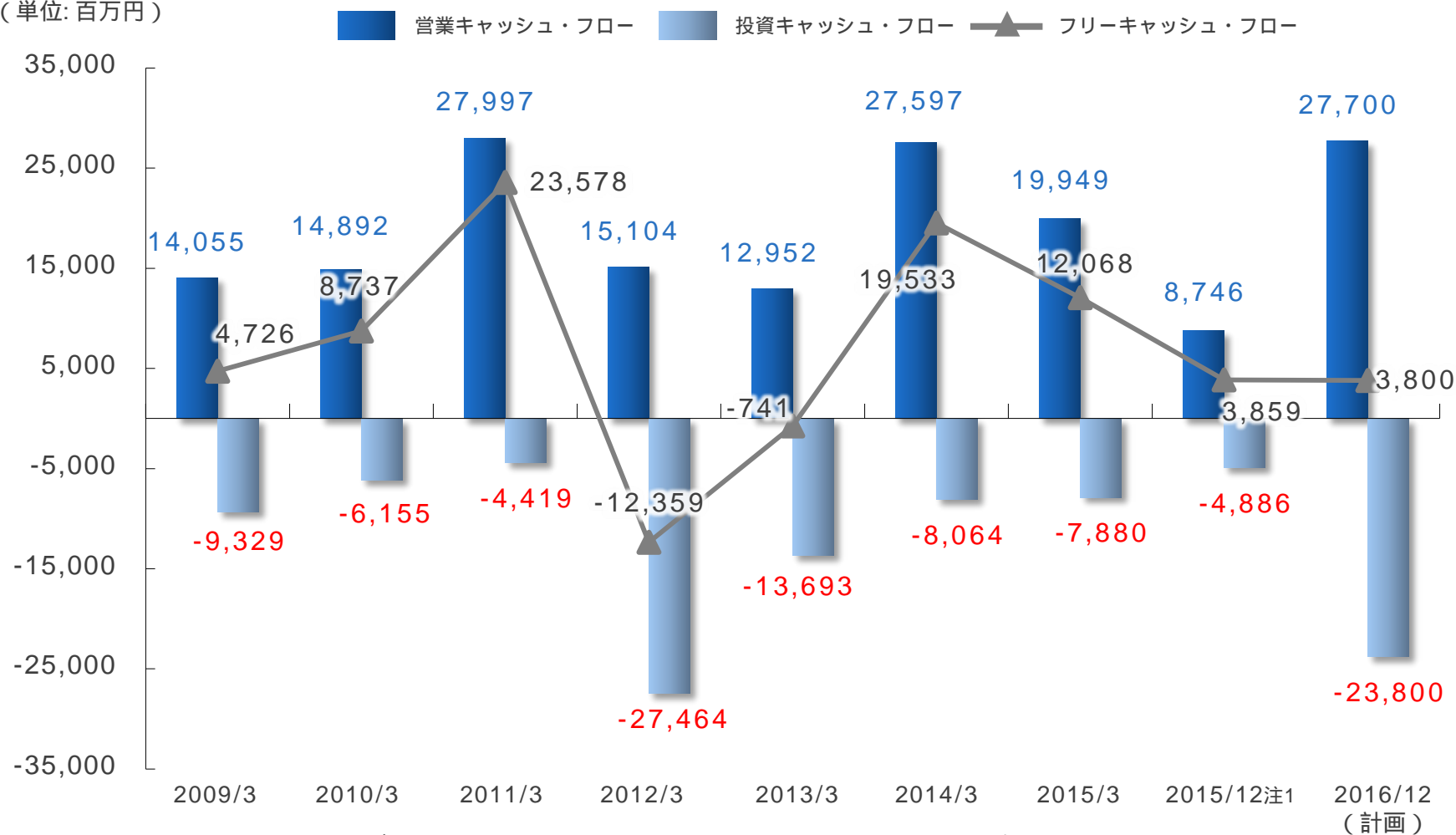
包装機： 海外向け売上の増加により増収の見通し

営業利益(セグメント)： 各事業での増収に伴い増益の見通し

連結キャッシュ・フロー

大規模な設備投資を実施するものの、営業キャッシュ・フローによりフリーキャッシュ・フローのプラスを維持

(単位: 百万円)



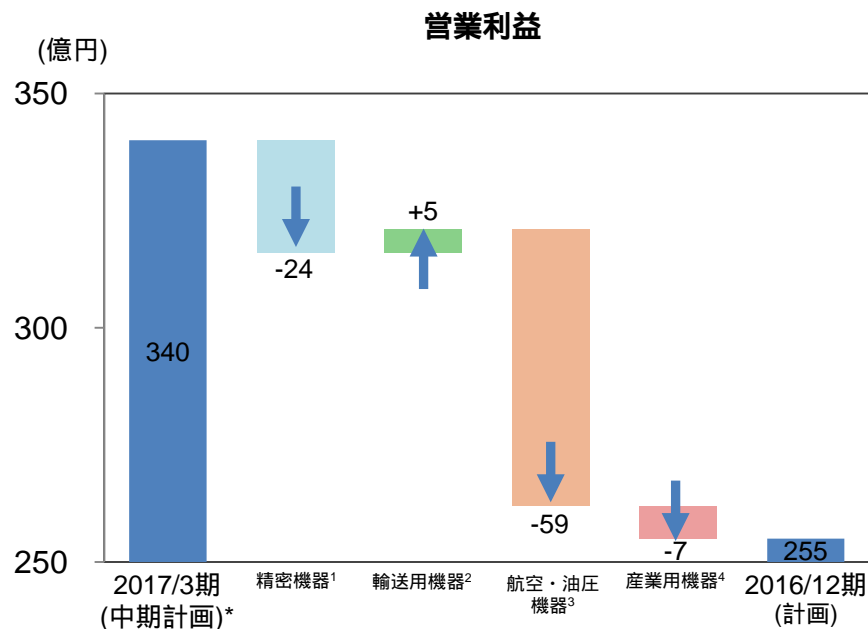
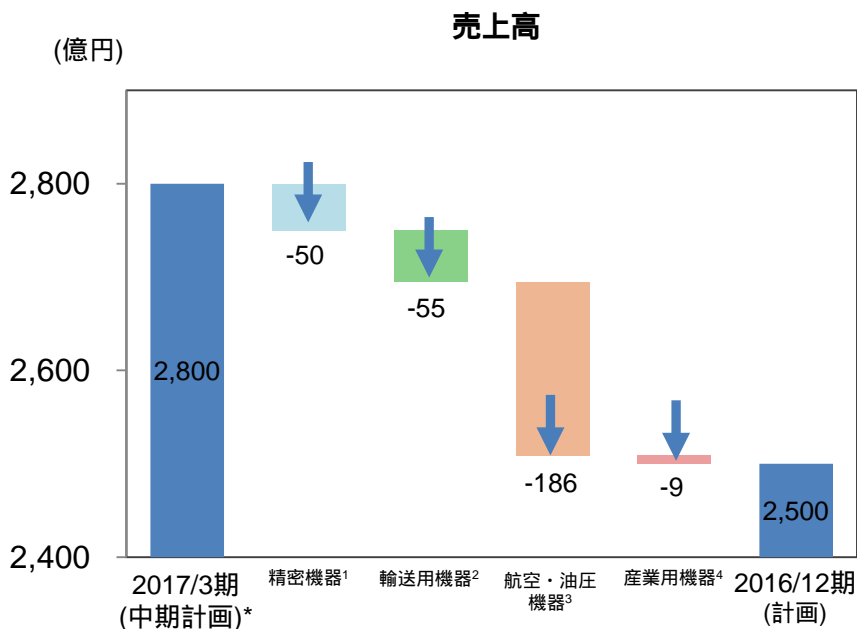
注1 2015/12 実績は、当社および国内連結子会社9カ月、海外連結子会社12カ月を連結対象期間としております。

3. 中期的な成長に向けた現状分析



中期経営計画最終年度（2017/3期） 対 2016/12期（計画）

先進国での成長が中心の事業は計画通りの成長を見込むが、新興国市場における成長を期待した事業は成長が鈍化している。



先進国での成長により、中期計画(2017/3期)通りの成長を見込む事業

精密減速機¹、船用機器²、航空機器³、自動ドア⁴

中国や東南アジア等の新興国市場の変動を受け、想定よりも鈍化する見込みの事業

鉄道車両用機器²、商用車用機器²、油圧機器³、包装機⁴

新規開拓を見込んでいた太陽熱発電市場の立ち上がりが遅れ、計画を下回る事業

新エネルギー事業¹

*中期経営計画は2014年5月に策定しました。

中長期的に成長する主な事業

市場の伸びにより成長する事業

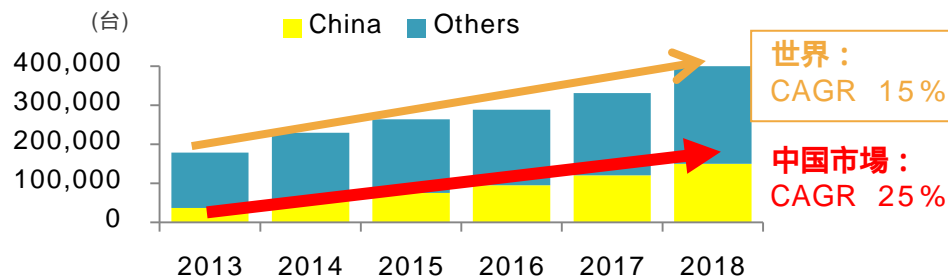
精密減速機

航空機器

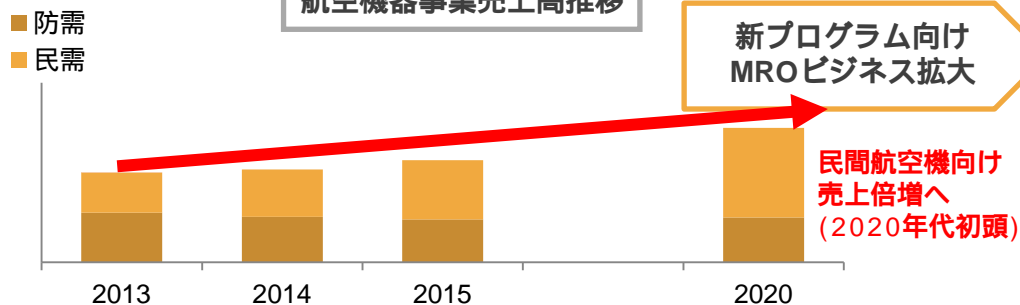
新プログラムの受注

- ・ 2008年：MRJ
- ・ 2013年：B737MAX
- ・ 2015年：B777X

世界ロボット出荷台数推移



航空機器事業売上高推移



市場に合わせた戦略により成長させる事業

自動ドア : 北米・欧州地域でのシェア拡大により成長

油圧機器 : 製品ラインナップの拡充による成長

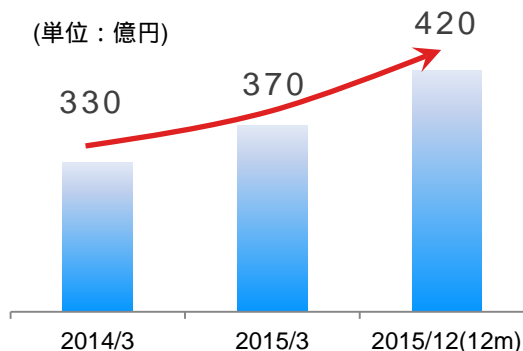
鉄道車両用機器 : 欧州市場での拡大により成長

成長投資と自社株買いの実施

積極的な成長投資

販管費

(単位：億円)

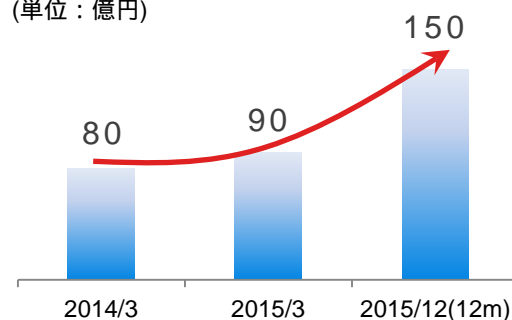


< 先行投資内容 >

- ・ 研究開発費
- ・ 広告宣伝費
- ・ IT関連費用
- ・ 海外拠点整備

戦略投資

(単位：億円)



< 設備投資 >

- ・ 生産能力増強(精密・航空)
- ・ 生産性・環境効率向上
(工場の近代化投資)

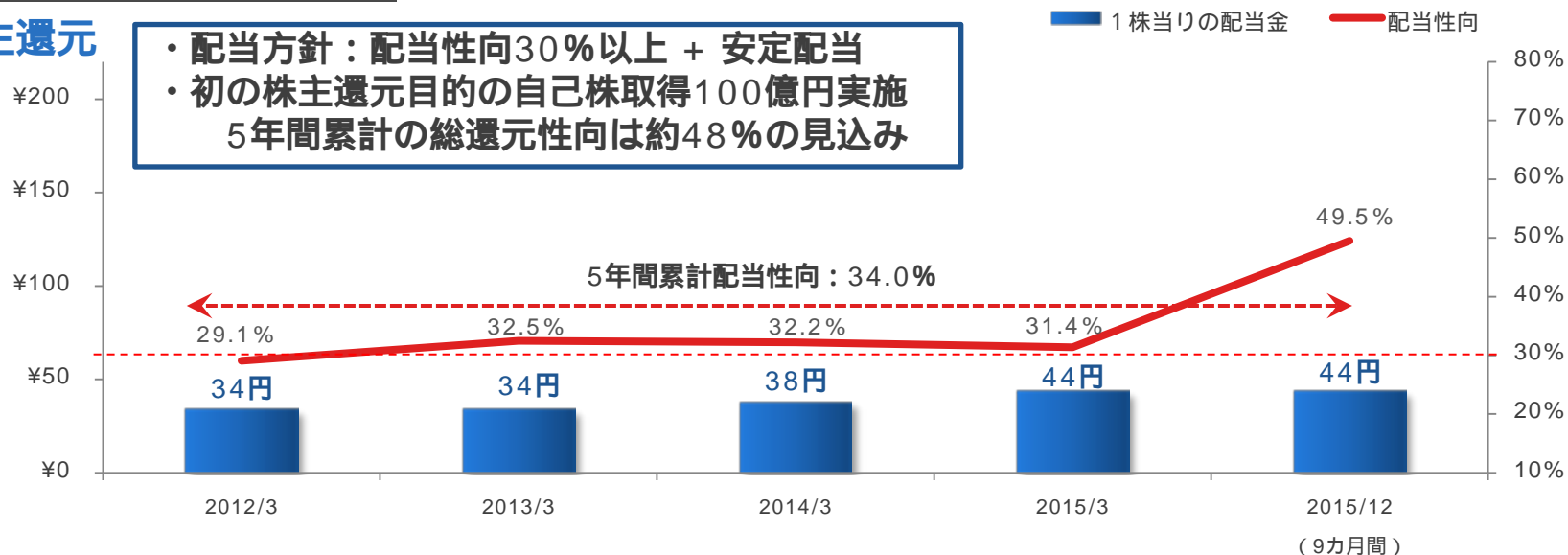
< M&A等 >

- ・ 鉄道欧州拠点
- ・ 油圧機器子会社
- ・ 自動ドア販社

持続的・安定的な株主還元

株主還元

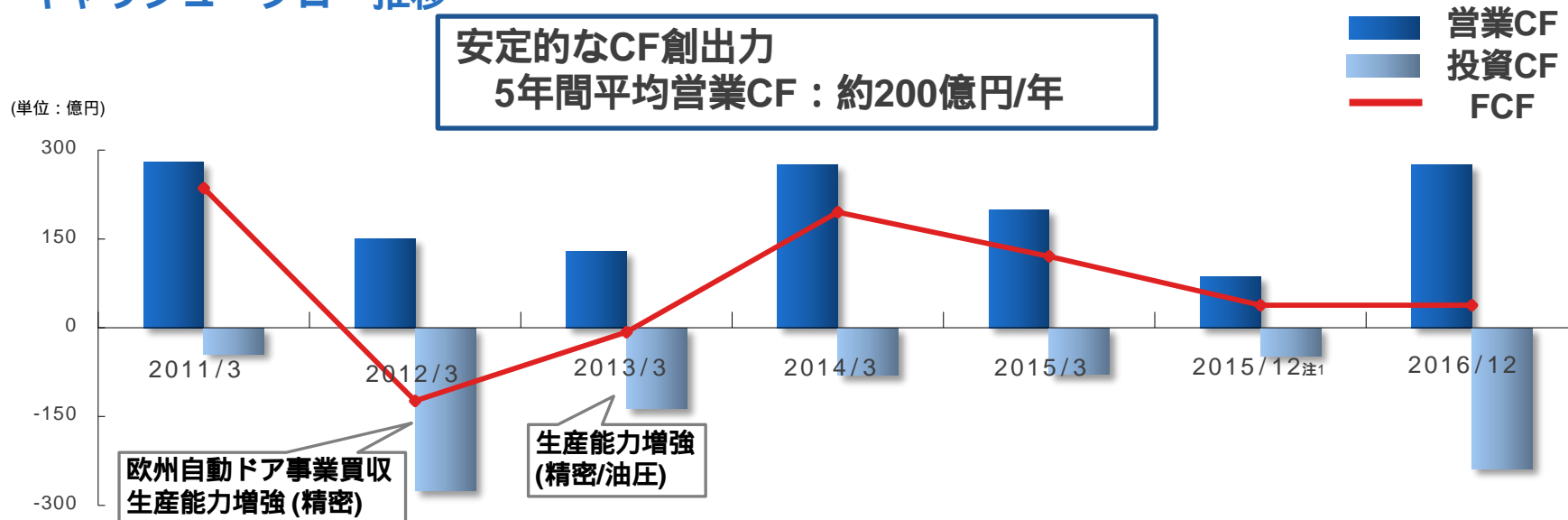
- ・ 配当方針：配当性向30%以上 + 安定配当
- ・ 初の株主還元目的の自己株取得100億円実施
5年間累計の総還元性向は約48%の見込み



安定的なCF創出力・強固なB/Sを維持し、成長投資と株主還元を両立する

企業価値・株主価値向上の原資

キャッシュ・フロー推移



デット調達余力

< 15/12末B/S >

- 手元流動性：約350億円
- 自己資本：約1,400億円
- 自己資本比率：60.9%

信用格付A格維持を前提に**45%程度**まで引下げ余地
(**800億円**のデット調達余力)

- ・**エクイティファイナンスは原則実施せず**

Technology Innovation

新事業創出に向けたオープンイノベーション

- ｜ ナブテスコ デジタル・エンジニアリングセンターを京都リサーチパーク内に移設
- ｜ 海外研究機関との共同研究
 - デンマーク工科大学、ワシントン大学、スイス連邦工科大学チューリヒ校

工場の近代化：環境効率と生産性向上を両立

- ｜ CO2削減40%以上（精密減速機中国新工場）
- ｜ 生産性倍増・CO2半減（航空機器）
- ｜ 先進設備導入による省エネルギー化、省人化、自動化、リードタイム短縮（主要工場）

（2020年度）
CO2削減 グループ長期目標
売上高原単位20%削減
（2012年度基準）

Market Creation

海外展開の加速

- ｜ 欧州販売拠点の強化（コーポレート全体で活用促進）
- ｜ インド駐在員事務所開設

M&Aの実施

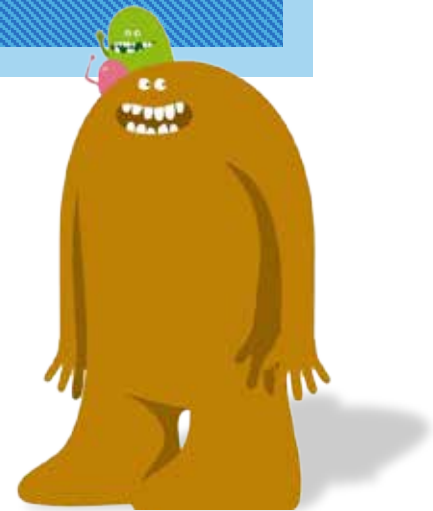
- ｜ 欧州販売・生産拠点の獲得（鉄道車両用機器）
- ｜ 北米販売代理店網の拡大（自動ドア）
- ｜ 製品ラインアップ拡充（油圧機器）

注1：当社および国内連結子会社9カ月、海外連結子会社12カ月を連結対象期間としております。

注2 「2015年12月期実績(参考値)」として示す業績数値は、「2016年12月期計画(1-12月)」に対して、同条件で比較を行うため、比較対象期間を同期間(12カ月間)に置き換えて算出した数値となりますのでご留意下さい。

注3 2015/12月期は決算期変更の経過期間となることから、従来3月決算であった会社は9カ月間(2015年4月1日～2015年12月31日)、従来より12月決算の会社は12カ月間(2015年1月1日～2015年12月31日)を連結対象期間とした決算となっており、連結配当性向が方針(30%-40%)を上回っております。

Appendix



2015年2月

- ・中国における精密減速機の生産拠点設立および同国での油圧機器事業再編を発表
- ・中国の減速機用歯車製造会社の完全子会社化および精密減速機生産拠点への移転を発表

2015年3月

- ・ハイエストコーポレーション買収を発表
- ・ボーイング 777X 向けフライト・コントロール・アクチュエーション・システムを受注

2015年4月

- ・社会的責任投資の国際指標「FTSE4Good Index Series」に12半期連続で選定
- ・Siemens AG からフランス「レンヌ地下鉄」B路線向けNEOVAL車両の乗客用ドアを受注



FTSE4Good

2015年7月

- ・京都リサーチパークへ「ナブテスコ・デジタル・エンジニアリング・センター」を移転
金属系3Dプリンター導入により、製品開発プロセス革新へ

2015年9月

- ・航空機器事業の生産能力増強投資を開始(2016年度に稼働予定)
- ・社会的責任投資の国際指標「DJSI Asia Pacific Index」に3年連続で選定

2015年10月

- ・ナブテスコ コーポレートガバナンス基本方針を策定

2015年12月

- ・初の株主還元を目的とする自己株式取得および自己株式消却を実施

2016年1月

- ・RobecoSAM社「Sustainability Yearbook 2016」のYearbook Memberに初選定

	2015年12月期 実績(参考値注2)	2016年12月期 計画	2017年3月期 中期計画最終年度
売上高	2,289億円	2,500億円	2,800億円±5%
営業利益	213億円	255億円	340億円
営業利益率	9.3%	10.2%	12.0%
当期純利益*	147億円	189億円	240億円
EPS	118.41円	153.04円	190円
ROA	6.2%	7.6%	7.5%
ROE	10.1%	12.5%	15.0%
配当額	44円(予)	50円(予)	-
配当性向	-	32.7%(予)	30%以上

*当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

注2の注記に関する事項は末尾の注記リストをご参照ください。

設備投資額・研究開発費・減価償却費

2015/12期は精密減速機中国新工場など適切な設備投資を実施

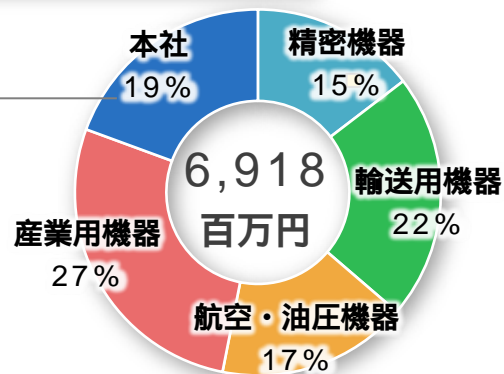
2016/12期は航空機器における新建屋建設や各工場の近代化投資を実施予定

(単位：百万円)	2015/12 実績	2015/3 実績	2016/12 計画	累計* 15/3,15/12(9ヵ月), 16/12(計画)	中期経営計画
	当社および国内連結子会社9ヵ月 海外連結子会社12ヵ月				15/3～17/3累計 2014年5月策定
設備投資額	8,982	6,918	20,000	359億円	450億円
研究開発費	5,800	6,876	8,200	208億円	230億円
減価償却費	6,363	6,258	8,600	212億円	230億円

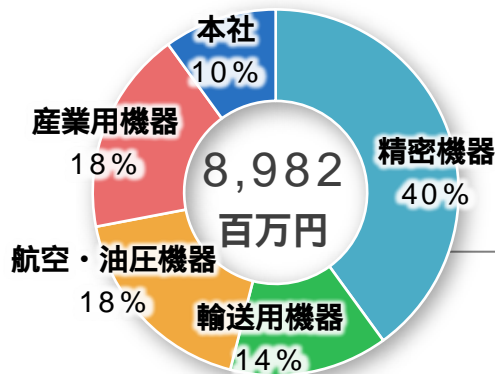
*累計額は2015年3月期実績(12ヵ月)、2015年12月期実績(9ヵ月)、2016年12月期計画(12ヵ月)の合計であり、中期経営計画で公表した3カ年累計額の対象期間と比べ当社および国内連結子会社が3ヵ月分少ない期間となります。

設備投資額内訳

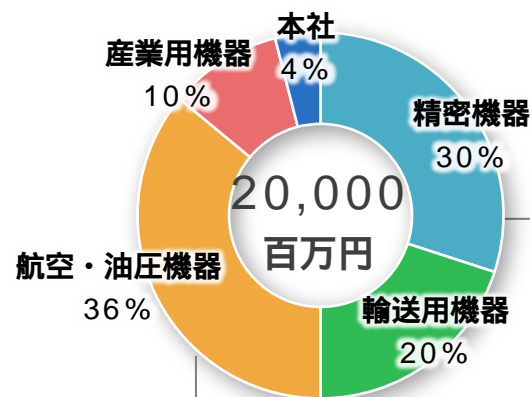
セグメント別



- 国内社宅更新
- ITインフラ整備

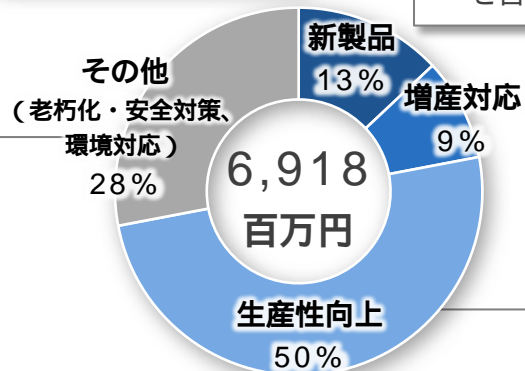


- 精密減速機
- 中国新工場建設
- 津工場増産対応



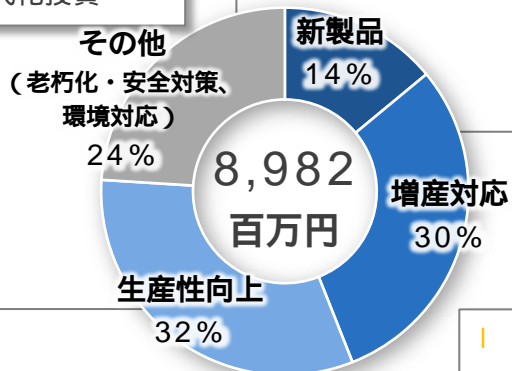
- 精密減速機
- 中国新工場設備導入等
- 航空機器
- 岐阜工場設備増強

目的別



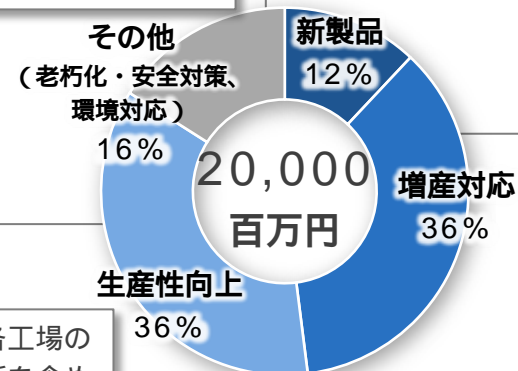
2015/3実績

- 国内外各工場の設備更新を含めた近代化投資



2015/12実績注1

- 環境関連投資
- 研究開発関連投資



2016/12計画

- 国内外各工場の設備更新を含めた近代化投資

注1 2015/12 実績は、当社および国内連結子会社9カ月、海外連結子会社12カ月を連結対象期間としております。

精密機器セグメント 主要製品

精密減速機

産業用ロボットの関節用途



工作機械 ATC駆動分野

(ATC = Automatic Tool Changer)

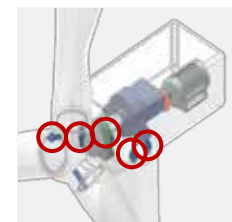


新エネルギー機器

太陽追尾駆動装置



風力発電用駆動装置



主要顧客 (敬称略)

精密減速機

産業用ロボット：ファナック、安川電機、川崎重工業、KUKA Roboter (独)、ABB Robotics (スウェーデン)

工作機械：ヤマザキマザック、オークマ、DMG森精機

新エネルギー事業

太陽追尾装置：Cobra Thermosolar Plant (スペイン)

風力発電機用駆動装置：三菱重工業、日立製作所、他

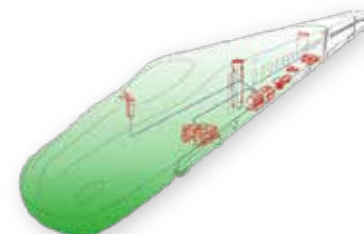
輸送用機器セグメント 主要製品

鉄道車両用機器

鉄道車両用ブレーキシステム



鉄道車両用ドア開閉装置



商用車用機器

商用車用ウェッジチャンバー

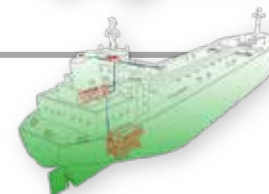


商用車用エアドライヤー



船用機器

船用エンジン遠隔制御システム



主要顧客 (敬称略)

鉄道車両用機器

JR各社、民鉄各社、川崎重工業、中国高速鉄道・都市交通向け

商用車用機器

日野自動車、三菱ふそうトラック・バス、いすゞ自動車、UDトラックス

船用機器

川崎重工業、三井造船、三菱重工業、日立造船

Hyundai Heavy Industries (韓)、Doosan Engine (韓)、Hudong Heavy Machinery (中)、MAN Diesel (デンマーク)

航空機器

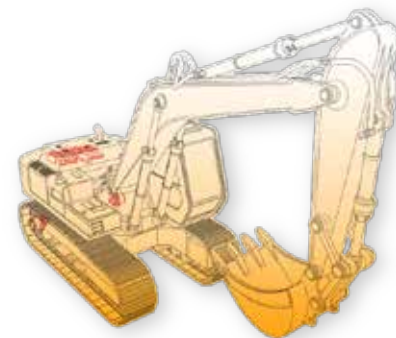
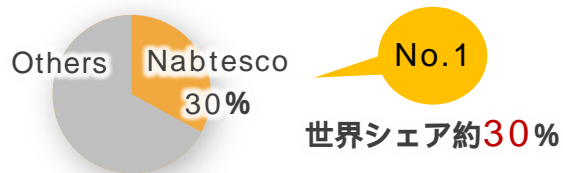
フライトコントロール・アクチュエーションシステム(FCA)

- | FCAでは世界4強の1社(ボーイングの主要サプライヤー)
- | エンジン補機、電源システム等へも事業展開



油圧機器

パワーショベル用走行ユニット



主要顧客 (敬称略)

航空機器

Boeing (米)、川崎重工業、三菱重工業、IHI、防衛省、エアライン各社

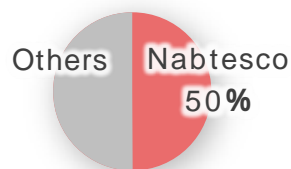
油圧機器

コマツ、コベルコ建機、クボタ、住友建機、日立建機、Sany、Zoomlion、Xugong Excavator、Liu Gong

産業用機器セグメント 主要製品

自動ドア

自動ドア開閉装置



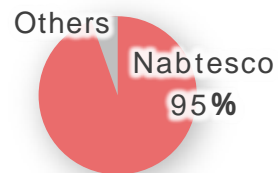
No.1

建物用自動ドア

国内シェア約50%
(世界トップクラス)



プラットホームスクリーンドア



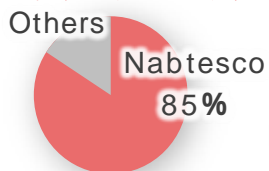
No.1

国内シェア約95%
(累計)



包装機

レトルト食品用充填包装機



No.1

国内シェア約85%



主要顧客 (敬称略)

自動ドア

各種建物用自動ドア：大手ゼネコン他建設工事会社、サッシメーカー、病院、銀行、公共機関

プラットホームドア：フランス地下鉄、中国地下鉄、他

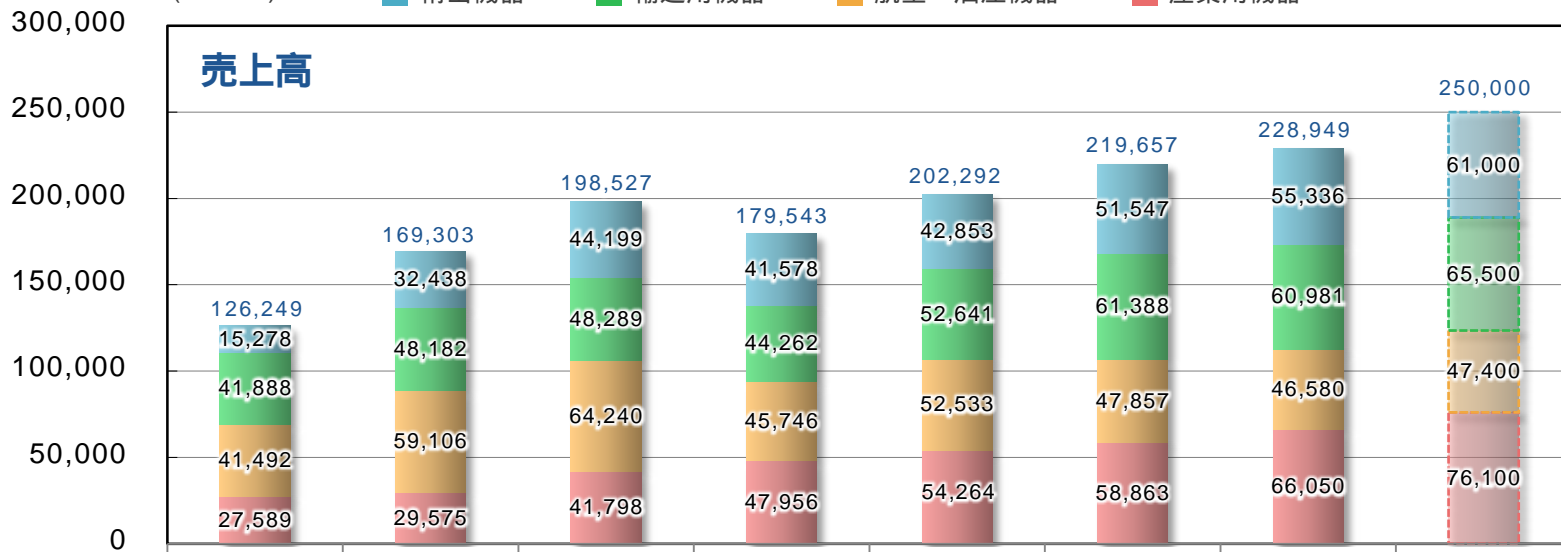
包装機

三井製糖、味の素、丸大食品、アリアケジャパン、ケンコーマヨネーズ、P&G、花王、ライオン、北米飲料メーカー、中国食品メーカー

事業セグメント別 売上高・営業利益推移(12ヵ月)

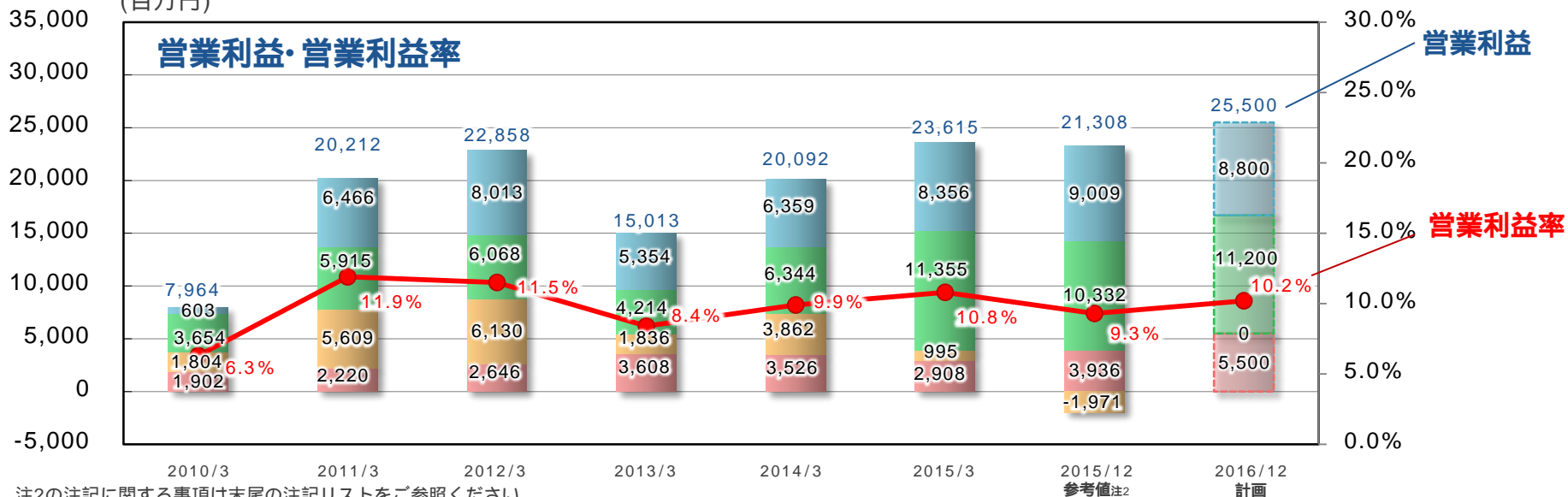
(百万円) ■ 精密機器 ■ 輸送用機器 ■ 航空・油圧機器 ■ 産業用機器

売上高



(百万円)

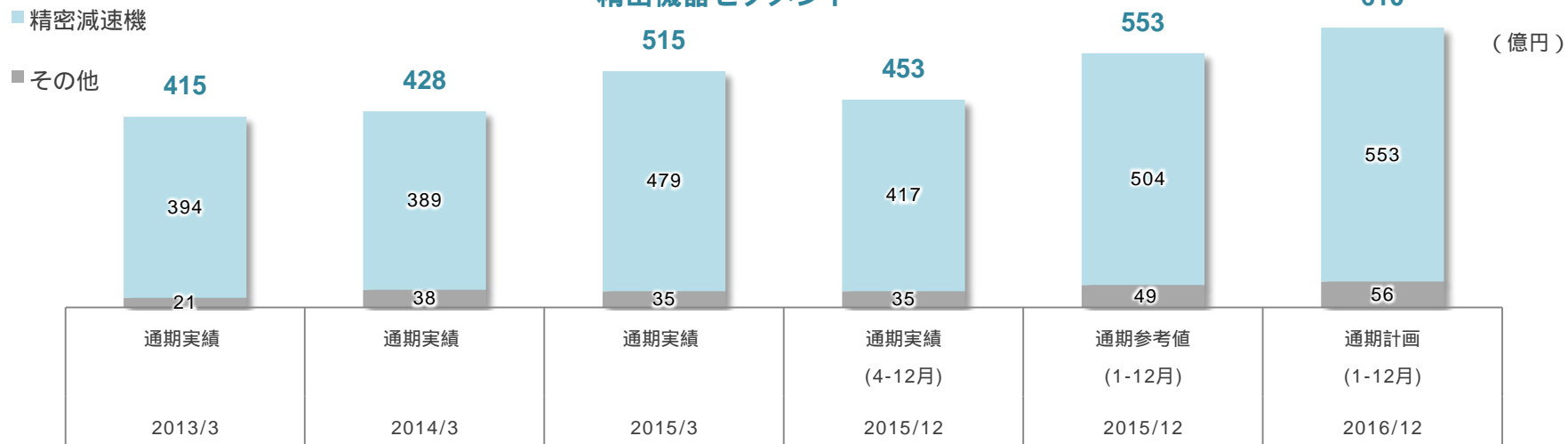
営業利益・営業利益率



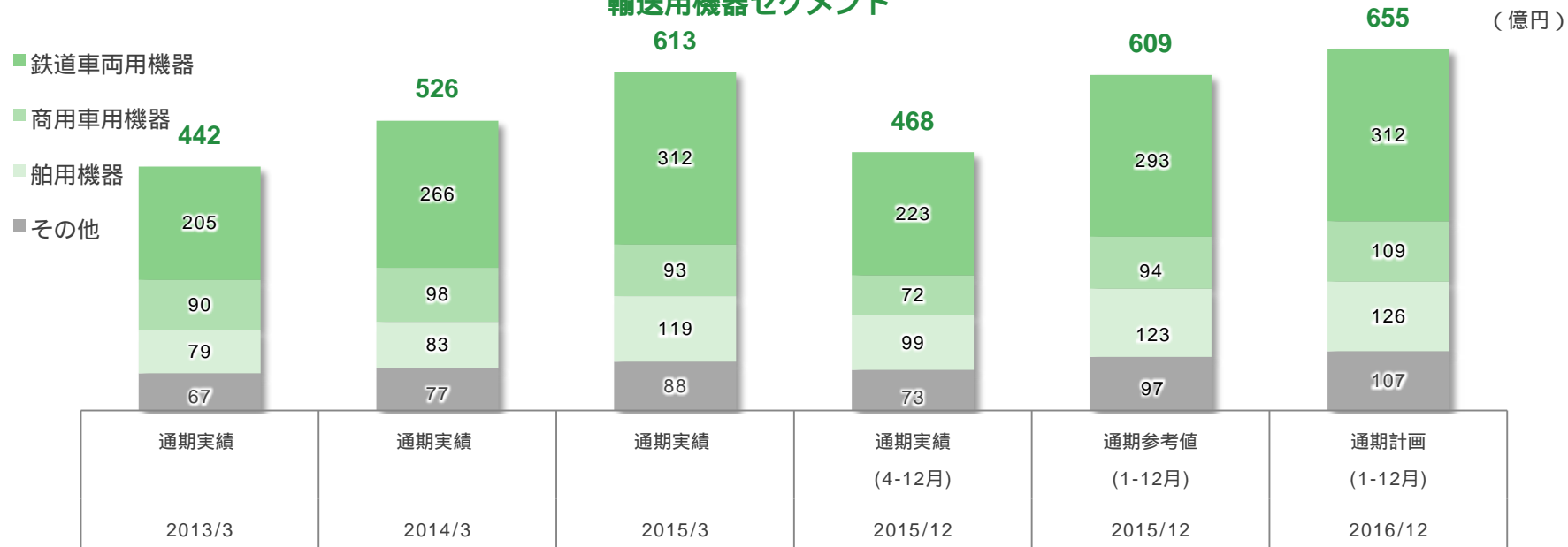
注2の注記に関する事項は末尾の注記リストをご参照ください。

事業別 売上高推移

精密機器セグメント

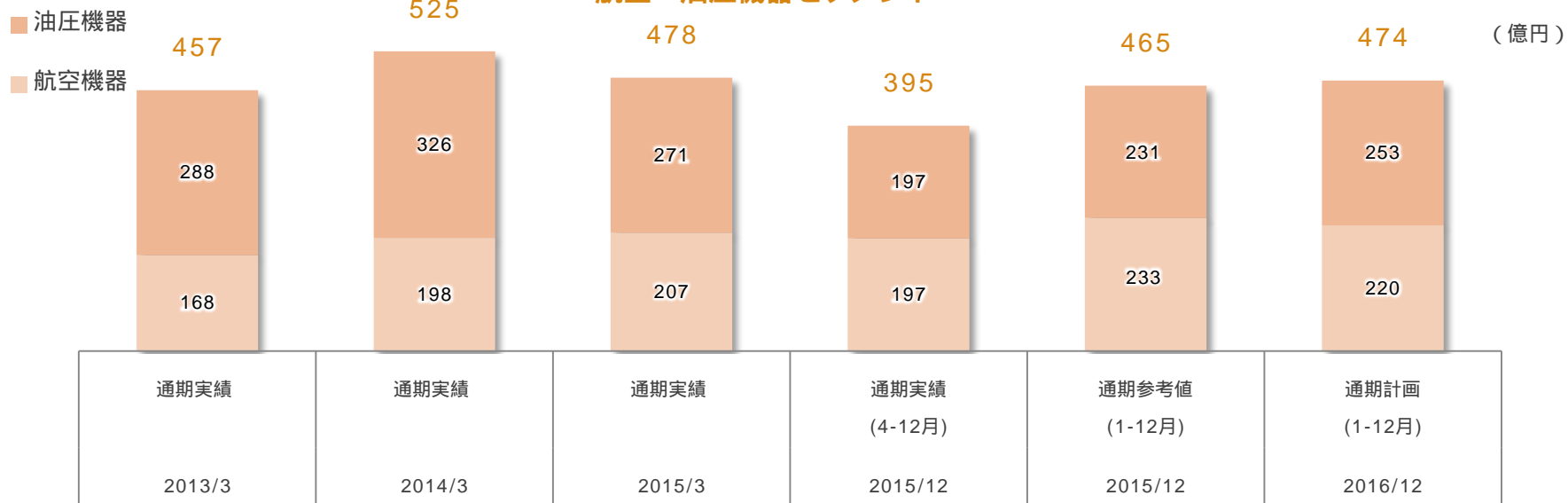


輸送用機器セグメント

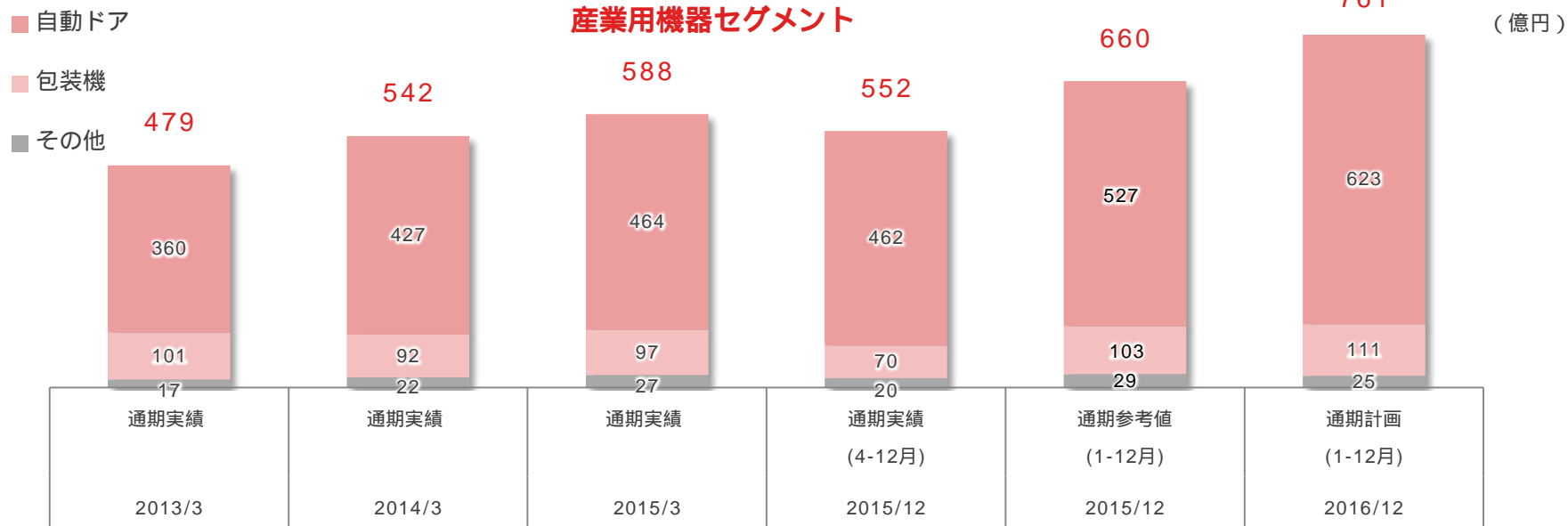


事業別 売上高推移

航空・油圧機器セグメント

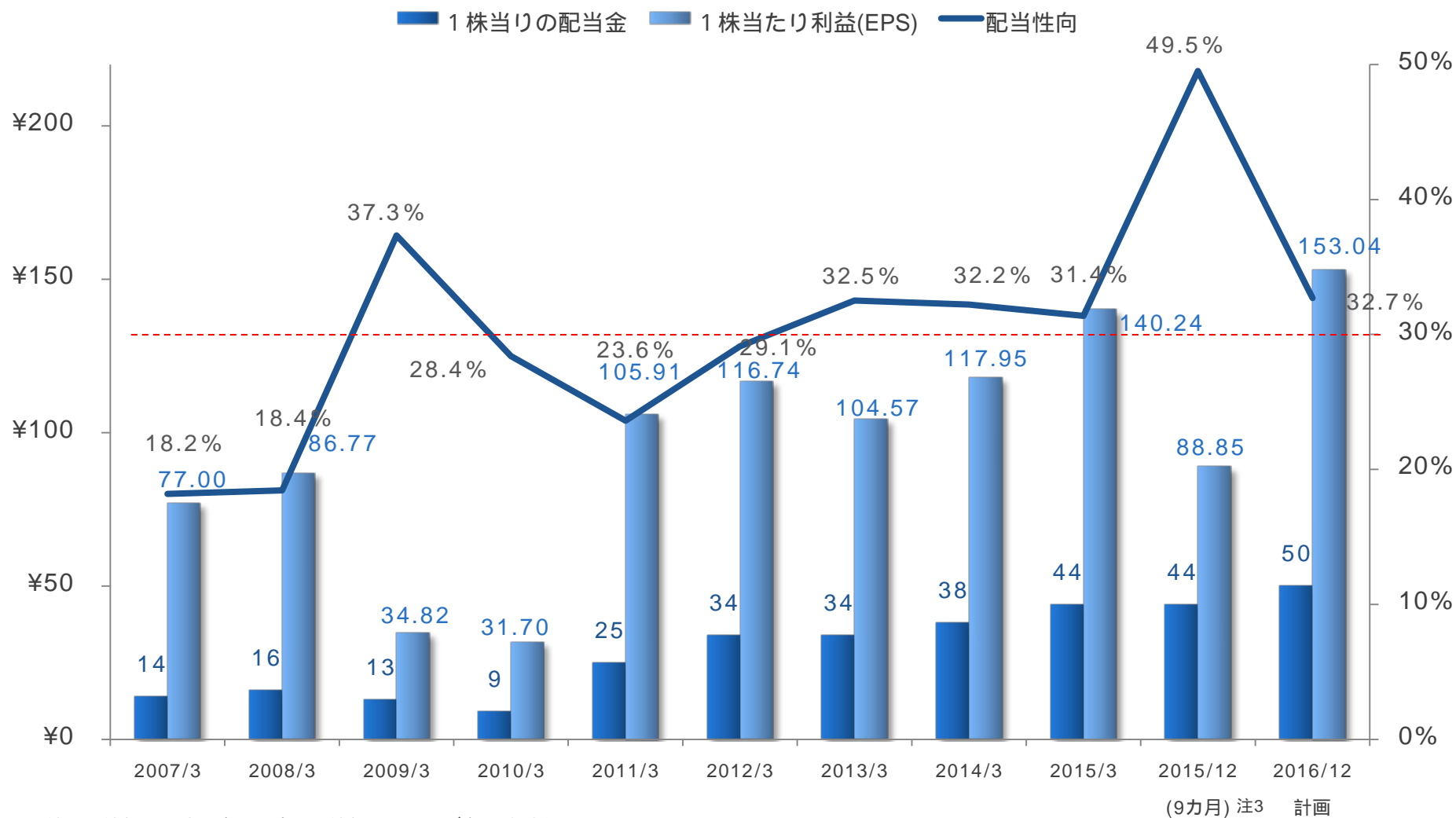


産業用機器セグメント



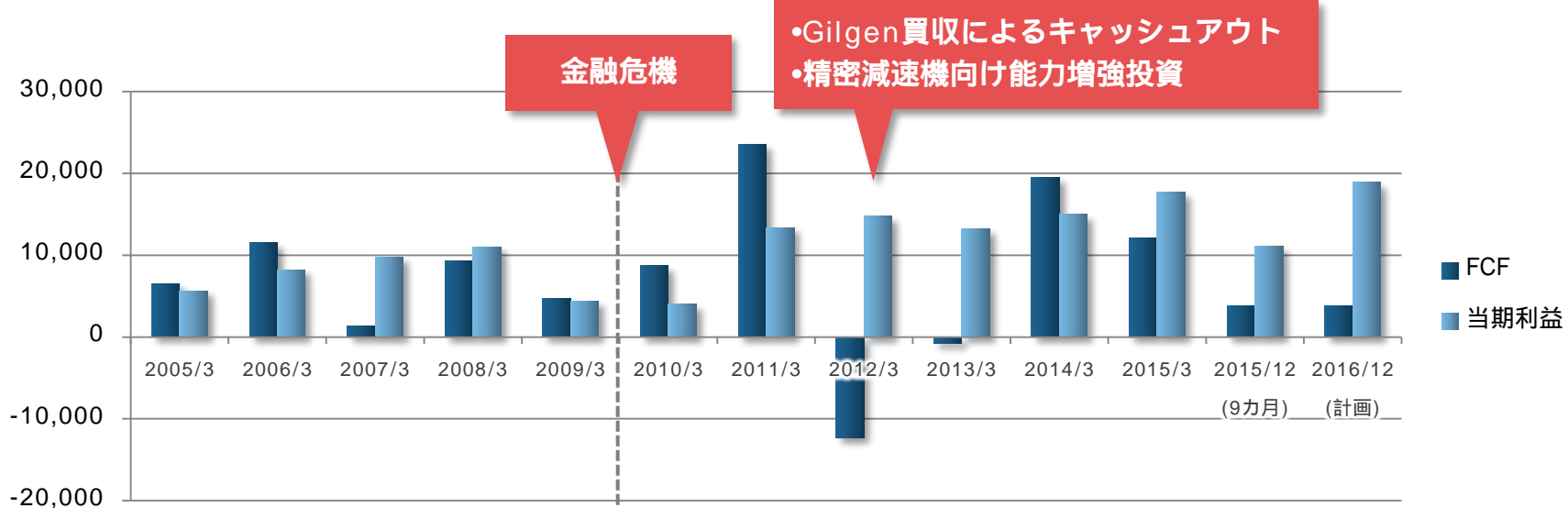
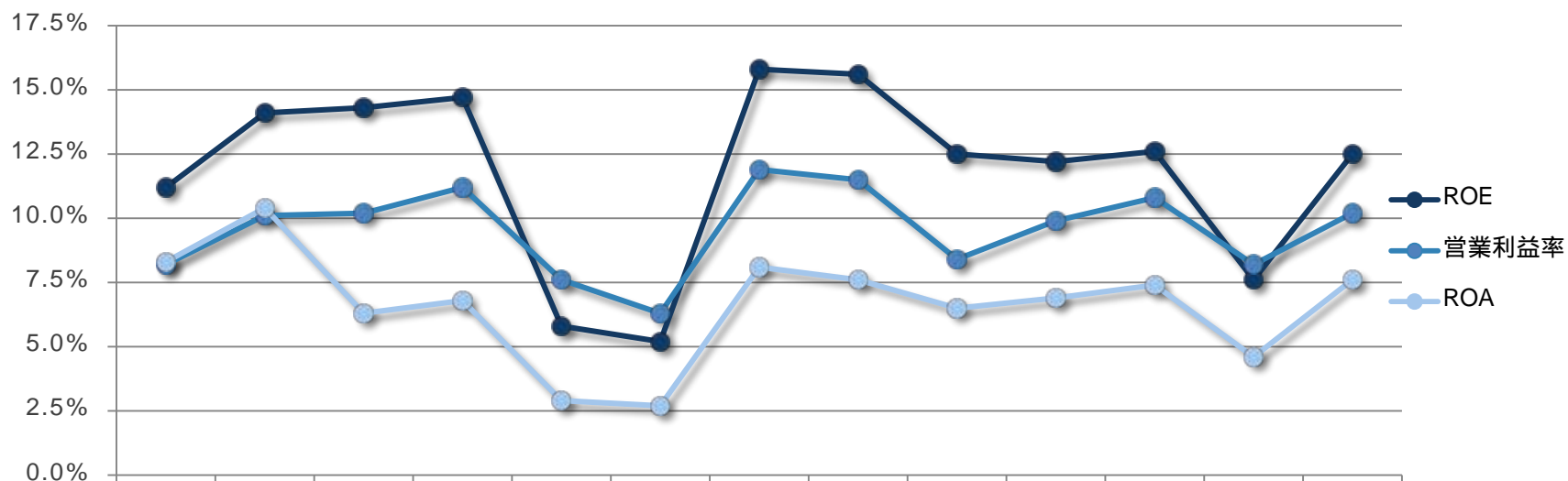
配当額・配当性向の推移

安定配当を考慮しつつ、配当性向30%以上を維持



注3の注記に関する事項は末尾の注記リストをご参照ください。

ROA/ROE推移



データ集



セグメント別業績概況

(単位：百万円)

セグメント	項目	2015/12 実績 (A) 当社および国内連結子会社9カ月 海外連結子会社12カ月	2015/12 通期 期首計画 2015年5月策定(B)	実績と期首 計画の差異 (A-B)	達成率 (A/B)
精密機器	売上高	45,327	46,300	-973	97.9%
	営業利益 (営業利益率)	6,824 (15.1%)	6,500 (14.0%)	324 (1.1 pt)	105.0%
輸送用機器	売上高	46,848	51,700	-4,852	90.7%
	営業利益 (営業利益率)	7,890 (16.8%)	9,200 (17.8%)	-1,310 (-1.0pt)	85.8%
航空・油圧機器	売上高	39,524	45,700	-6,176	86.5%
	営業利益 (営業利益率)	-2,029 (-5.1%)	0 (0.0%)	-2,029 (-5.1pt)	-
産業用機器	売上高	55,299	56,300	-1,001	98.2%
	営業利益 (営業利益率)	2,610 (4.7%)	2,200 (3.9%)	410 (0.8%)	118.6%

注：当連結会計年度は決算期変更の経過期間となることから、増減は記載しておりません。

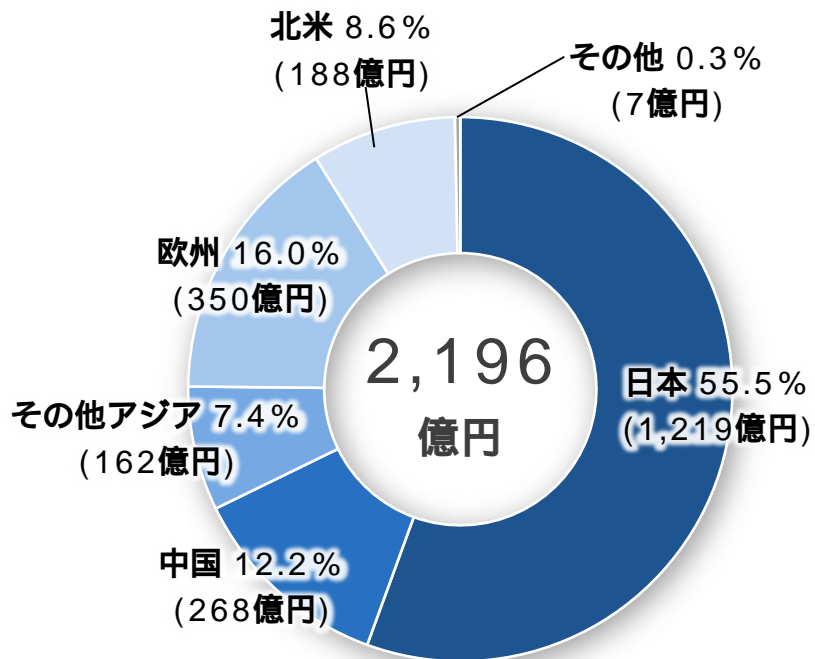
為替影響データ

項目	通貨	2015/12 実績	2015/12 通期	2016/12	2015/3
		当社および国内連結子会社9カ月 海外連結子会社12カ月	期首計画 2015年5月策定	通期計画	通期実績
為替レート	USD	121.03	115.00	115.00	106.46
	RMB	19.37	18.50	18.00	17.30
	EUR	133.69	124.00	130.00	140.35
	CHF	125.75	118.00	120.00	115.70
為替感応度 (為替が1円変動し たときの営業利益 に対する影響)	USD	57百万円	92百万円	91百万円	91百万円
	RMB	-32百万円	軽微	55百万円	-4百万円
	EUR	軽微	軽微	軽微	軽微
	CHF	軽微	軽微	軽微	軽微

地域別売上高構成比

2015/3実績

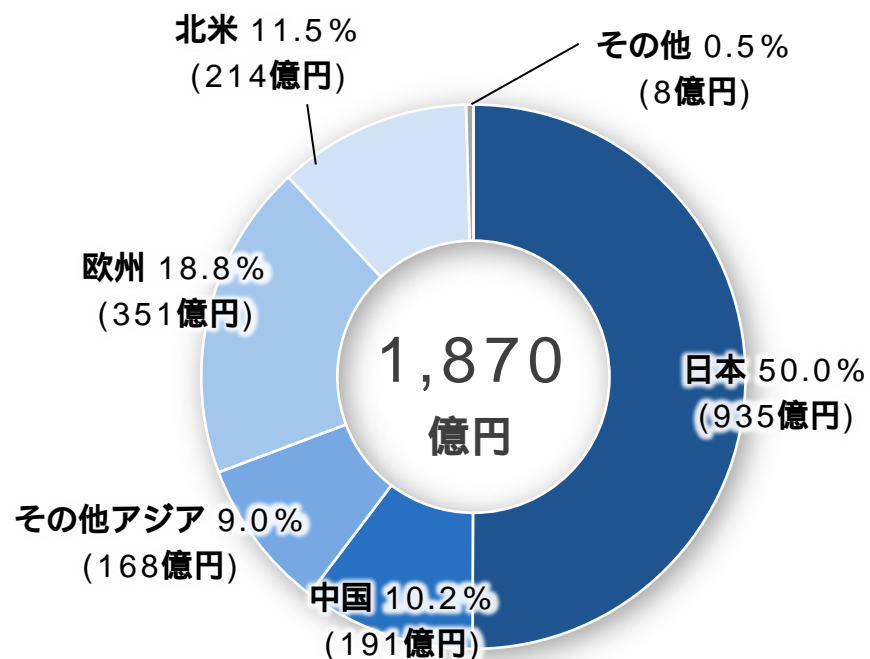
(国内・海外ともに12ヵ月)



海外売上高	977億円
海外売上高比率	44.5%

2015/12 実績

(国内9ヵ月、海外12ヵ月)



海外売上高	935億円
海外売上高比率	50.0%

うごかす、とめる。
Nabtesco

